

<学校の教育目標>

- 仲良く助け合う子「心」 □進んで学習する子「頭」 □じょうぶな体をもつ子「体」

学力の分析

本校は児童数が少ないので、全国や都の学力調査の結果だけから、児童の学力を経年的にとらえるのは難しい。そこで、年度末に学校独自の学力調査も行い、学年進行や、その学年の学力の特徴を分析的にとらえている。また、学力向上の要としての校内研究で毎年明らかにしている児童の実態から、本校の学力向上の重要な要素を見つけることで、学力の分析を数値だけに頼らず、児童の実態やアンケートの結果などから多面的に分析する。

本校の強み	本校の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・都の学力調査、全国学力調査の全国平均と比べると下回るが、青梅市の平均よりは4ポイントほど上回る。また、国語での長文の「読み取り」や算数での「数量や図形についての知識理解」や「数学的な考え方」についてはほぼ平均並みの正答率である。（一昨年度） ・本校独自のCDT学力調査の結果の経年変化を見ると、どの学年も平均値を超えた項目が多く、とくに国語の「読む力」や算数の「数量」「図形」などの基礎学力がついている。 ・学習に対する質問項目に対しても肯定的な回答が多く「興味・関心」が高いと言える。 ・個人差が大きく、学年によっても違った傾向が見られるが、少人数を生かし、個別に指導を行ったり、確実な理解につなげる課題を継続的に与えたりすることによる効果大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題は都平均よりも10ポイントほど下がる。「書く力」（書くことへの抵抗感や的確な文章化の力）については厳しいと考えられる。（一昨年度） ・本校独自のCDT学力調査でも国語「書く力」への課題が見られた。また、算数では発展的な問題において無回答が見られた。特に「データの活用」の問題においては極端に弱い面が見られた。 ・表現力に関しては、発表はできるが、自分の考えを自分の言葉で自信をもって表現する力に課題が見られる。 ・少人数のため児童同士の対話も比較的多いが、深い話し合い（討論）になりにくいため、考えをより深めていく場を意図的に設定し、授業に取り入れていく必要がある。

七小の考える学力

（子供たちに身に付けさせたい力）

- ・基礎学力
- ・楽しく自ら進んで学ぶ力（主体的な学び）
- ・顔を突き合わせて学び合う力（対話的な学び）
- ・物事を多面的に思考する力（深い学び）

目指す児童像
（校内研究テーマ）
「自ら考え、みんなで学ぶ子供の育成」
～付けた力をもとに、分かる、できる、楽しいを実感し、共に学び高め合える、国語・算数のじゅぎょうづくり～

青梅市学力向上
5ヶ年計画
～勉強好き、
青梅好きの育成～
「やる気」「根気」
「考える」

七小学力向上プロジェクト

プロジェクト① 「授業力向上・授業改善」 （校内研究の充実）

- ・全学級で研究授業及び協議会（国語・算数を中心に）
- ・教員同士による事前の模擬授業及び協議会
- ・研究テーマに合わせた講師の年間を通じた招聘
- ・ICT端末の活用
（学びの協働化）

プロジェクト② 「家庭学習の定着」

- ・家庭訪問に「家庭学習のススメ」を持参し周知
- ・来年度に向けて「家庭学習のススメ」の見直し
- ・ICT端末の利用
（学びの個別最適化）

プロジェクト③ 「基礎学力の定着」

- ・さわやかタイム（朝学習）
- ・夏季学習会
- ・七小算数オリンピック
- ・数検・漢検
- ・校内学力テスト（CDT）
- ・国及び都の学力調査
- ・放課後学習教室
（ステップアップクラス）

○新型コロナウイルス感染防止対策中における学力面での対応

- ・一人一台ICT端末の積極的な活用（健康観察、朝の会等をオンラインで実施）
- ・一人一台ICT端末を活用した家庭学習の推進（課題の提示・配布、回収、オンライン教材の活用）
- ・WEBやテレビで学べる情報をホームページ等で適宜提供
- ・家庭学習の内容とポイントについての担任からの指導
- ・学年だより等での家庭への学習内容の情報提供と、協力依頼
- ・図書室の本の貸し出し冊数の拡大